

講演学習会

なぜ福島で多発
しているの？

小児甲状腺がん を考える

そうかわよしひろ

宗川吉汪さんがやさしく語る

京都工芸繊維大学名誉教授（生命科学）

日本科学者会議・京都支部代表幹事

近刊のブックレット：

「福島原発事故と小児甲状腺がん」（本の泉社）

サブ企画

県内避難者と保養キャンプ
参加の子どもたちの健診に
ついて東昌子医師にお話し
いただきます

裏面もあります▶

とき

9月10日（土）

13:30-16:00

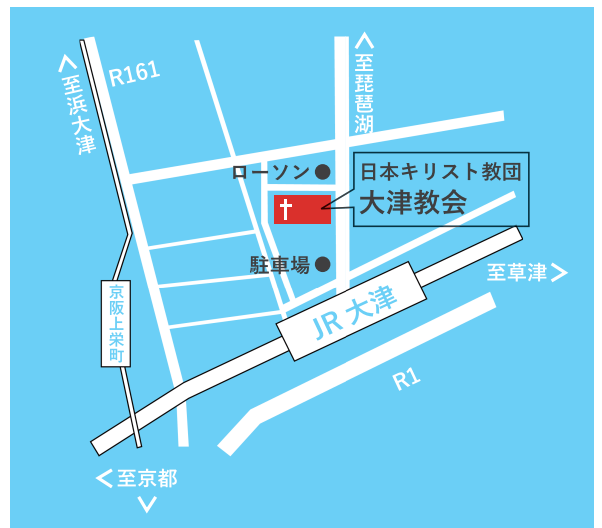
ところ

大津教会

（JR大津駅より徒歩3分）

※資料代：500円

（大学生：200円 / 高校生以下：無料）



お問合せ：090-9874-3266（野口）まで

主催：原発を考えるびわ湖の会

この講演では以下の5つの？について考えます。

1. 甲状腺がんとはどんな病気？
2. 福島県の甲状腺検査とはどんな検査？
3. 検査でどんな結果が出たの？
4. 小児甲状腺がん多発は本当に原発事故のせい？
5. 福島県・国・国際原子力機関ががん発症と原発事故の関係を認めないのはなぜ？



宗川さんのブックレット

(朝日新聞
三月十三日)

**小児甲状腺がん
「家族の会」結成**

福島県の調査で診断

原発事故後の福島県の県民健康調査で、小児甲状腺がんが診断された子どもたちの保護者による「311甲状腺がん家族の会」が12日、結成された。朝日新聞の取材に応じた家族らは、医師から原発事故との因果関係を否定され、手術後の再発の不安に苦しむ孤立感などを語った。

5家族7人の結成メンバーのうち、2家族3人が取材に応じた。40代の母親は、県立医大の担当医が、いきなり高校生の長女本人の前でがん宣告をしたという。術前術後の体調不良についても「納得いく説明がもらえない。家族同士で情報共有し、改善を求めたい」と家族会に参加した。別の家族の父親も、担当医が本人に突然、がん宣告し、「息子は数日立ち直れなかった」と憤る。

県立医大の担当医は取材に対し、広報コミュニケーション室を通じて「心のケアの専門家が不安や疑問を口にできる環境作りを心砕いてきた。未成年へのがん告知は、事前に保護者と相談し、確認している」などとした。

下の表は最新のデータ(6月6日発表)の分析結果です。
講演ではこの内容をどなたにも分かるようにお話します。

福島県民健康調査の結果(宗川)

		先行検査	本格検査	備考	
検査期間		2011~2013	2014~2016	本格検査は継続中	
検査対象観察期間(平均)		9.5年	3年	発見されたがんが発生した期間	
対象者数		36万7672人	38万1266人		
1次検査	エコー検査	結果確定者数	30万0476人	25万6670人	
		陽性者数	2294人	2061人	2次検査へ
		陽性率	0.764~0.786%	0.771~0.835%	信頼区間(信頼率99.9%)
2次検査	エコー再検査 血液・尿検査	結果確定者数	2086人	1242人	
		陽性者数	678人	456人	3次検査へ
		陽性率	31.498~33.52%	33.88~39.55%	信頼区間(信頼率99.9%)
3次検査	細胞検査	結果確定者数	545人	169人	
		陽性者数	115人	57人	手術の必要性の診断へ
		陽性率	19.05~23.15%	26.08~41.38%	信頼区間(信頼率99.2%)
手術		102人	30人	今までに132人が手術を受けた	
患者発見率		0.444~0.610%	0.681~1.366%	信頼区間(信頼率99%)	
検査対象者当りの患者数		163~224人	260~521人	同上	
10万人当りの患者数		44.4~61.0人	68.1~136.6人	同上	
年・10万人当りの患者数		4.64~6.42人	22.7~45.5人	同上	

本格検査と先行検査の発生率の比 = $22.7 / 6.42 = 3.54$ (信頼率99%)